

熊本まちなみトラスト

ペロ(自転車)タクシーによる歴史的まちなみ探訪

キーワード

ペロタクシー 歴史的まちなみ
NPO支援

団体・活動概要

熊本市内に残る銀行の社屋の保存・活用運動をきっかけとして、1997年に設立され、地域の歴史的建造物の保存、中心市街地の活性化、イベント等を活用したコミュニティ醸成活動を推進してきた。団体が活動の拠点としている新町・古町地区は、400年前の町割りがそのまま残る城下町で、今も風情ある建物が点在している。団体はこれらの建物を単に遺産として保存するのではなく、活用すべきもの(生き物)としてとらえて、地域の中に位置づけてきた。メンバーは地域内外で活躍する再開発プランナー、学識経験者、商工業者、行政職員等多様な主体により形成されている。歴史的建物の保存・活用以外の活動として、衰退した問屋街におけるアーティストショップの開店支援、商店主による来街者へのサービス支援、60年ぶりに復活させた精霊流しの実施等があげられる。

助成年度の活動概要

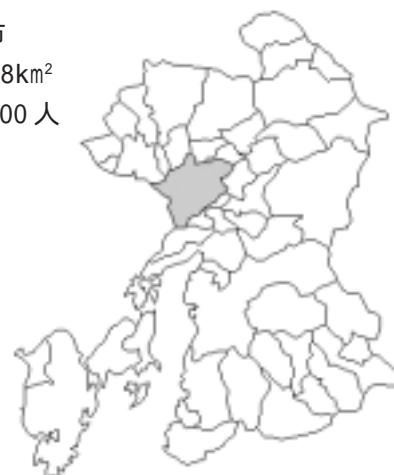
ペロタクシーを活用した新たなまちづくりNPOの設立・活動支援を行った。これは、団体にとって自らが活動するのではない新たな展開となった。

熊本まちなみトラストが行った主な支援

1. ペロタクシー購入、活動拠点の提供
2. 地域の歴史勉強会を核とした地区情報の提供と走行ルートの開拓
3. 警察やタクシー業者との折衝・協議
4. 団体会員(地域の病院)の確保
5. 他のまちづくりNPOや住民への広報

活動対象地域

熊本県熊本市
面積：267.08km²
人口：670,000人



活動の特徴・ポイント

1. ペロタクシーという視覚に訴えるツールを利用し、次代のまちづくりを担う若者を育成
2. 住民の生活を重視し、まちづくりが一部の人だけのものではないことを多様な人々が関わり、誰にでもわかりやすい手法を通して証明

熊本まちなみトラスト

代表者 会長 西嶋 公一

連絡担当者 事務局長 富士川 一裕

住所 〒860-0015 熊本県熊本市古川町25-1 古川町シティハウス2F

TEL 096-326-6611 FAX 096-326-6612

e-mail human@pop07.odn.ne.jp

ホームページ http://www1.odn.ne.jp/kmt

1. 活動の背景・目的

2007年の熊本城築城400年、2011年の九州新幹線開業をチャンスとして捉え、新町・古町地区一帯のまちづくりの目標像を共有しながら、広域の取り組みが始まった。

熊本駅から熊本城・中心商店街を結ぶ城下町である新町・古町地区は中心市街地の一角を成している。地区内では複数の団体によって、自主的なまちづくり活動が進められている。その多くは子どもを安心して育てられ、高齢者がのびのびと余生を送ることのできる「生活環境の回復」を目標にしている。

熊本まちなみTrustは、新町・古町地区内にある歴史的建造物の顕彰、具体的には調査・研究、所有者との交流、街への訪問客の案内、ボンネットバスや市電を貸しきっての見学会の開催等を行ってきた。

今回この助成を活用し、NPO法人熊本ホスピタリティネットワークと連携し、熊本城下町の顕彰活動をいっそう強めていくと共に、地域の方々の暮らしの交通手段として、交流の道具としてペロタクシーが活用され、定着していくことを目的として当事業に取り組んだ。

2. これまでの実績

当団体は、「旧第一銀行社屋」の保存活用運動をきっかけとして、「記憶の継承」を基本コンセプトに捉え、新町・古町地区のまちづくり団体と連携して、歴史的建造物の保存、中心市街地の活性化、地域住民のまちづくりへの参加等に取り組んできた。街の空洞化を防止するには、個々の地域住民が「まちに意識を向ける」ことに力点を置いた取り組みを行うべきだという確信に根ざした活動を行っている。



熊本市内の新町・古町地区

これまでの活動を振り返ると以下のような段階を経てきた。

1997 - 1998年：熊本まちなみTrust創世期
旧第一銀行社屋(1919年築)の取り壊しの危機から一転して保存再生へ至る、本会設立後の最初にして最大の結果を残した活動の時期である。

1999 - 2003年：プロジェクト繁忙期
旧日本勧業銀行社屋、後藤商店、月星化成熊本工場と立て続けに保存再生の道を探る活動を迫られた時期である。旧第一銀行の活動から得た



活動のきっかけとなった旧第一銀行社屋

「使う主体を探すことが最も重要」という教訓を活かしながら懸命に取り組んだ。結果は、一勝(保存活用)一敗(取り壊し)一引き分け(一部保存)といったところか。この時期、NPOネットワーク全国交流会(2000年/H&C財団と協働開催)や近代化遺産所有者との「まちなみ交流会」の開催、全国まちづくり屋台村への出品、シンポジウムの開催や参加などの交流活動も精力的に行っている。

2004 - 2005年：スキルアップ期

JR上熊本駅舎(1913年築)の保存活用では当初から地元のまちづくり団体との協働行動をとった。また、2003年度全国都市再生モデル調査(河原町プロジェクト)においても若者のグループを支援



JR上熊本駅舎

した。熊本まちなみトラスト固有のミッション(使命)を持ちながら他団体と協働してまちづくりに取り組むというスキルを学んだ。2005年には住民、行政、企業等多様な主体と連携して熊本城下の坪井川で60年ぶりに精霊流しを復活させた。

2006年 - : 社会貢献発展期

以上のような弛まぬ活動に対して2006年5月、日本建築学会九州支部から「業績賞」を授与された。これを機に、これまでに培ってきたネットワークとスキルを活用して、より積極的な社会貢献を果たす時期に達しているものと思われる。

ペロタクシー事業のさきがけ

新町・古町地区の商店主を主体としたまちづくりワークショップの中で、当団体が京都で歴史的まちなみを走るドイツ製3輪自転車の写真を紹介したことがきっかけで、ワークショップ参加者間にペロタクシーについての関心が高まった。大学の教授から勧められてこのワークショップに参加するようになった大学院生たちは、地域密着で何かしたいという思いとペロタクシーがつながり、ワークショップで積極的に提案するようになっていった。ペロタクシーの利点について参加者全員が納得するには至らなかったが、そのような若者の姿に商店主らも「こういう風にしたらできるのでは」といった助言をするようになった。やがてペロタクシー事業は大学院生の自発性を尊重した実行体制で始動することとなる。

1. 「熊本にペロタクシーを走らせる会」立上げ支援 新町・古町地区のまちづくりにおける学生(工学部・商学部)参加の呼掛け

子ども・お年寄りをはじめとした生活者や観光客の移動手段としてペロタクシープロジェクトの起案

2005年3月熊本学園大学修士1年草野さん、東さんがプロジェクトに参加



ペロタクシー出発式

以降、この2人が中心メンバーとなり「熊本にペロタクシーを走らせる会」を立上、熊本まちなみトラストでは事務局長富士川をはじめとして立上げを支援

新町・古町地区のまちづくりメンバーに賛同をいただき、会員募集

2005年11月13日五福ふれあいまちづくりの会による「風流街浪漫フェスタ」で試走会開催(車輜は宮崎から借用)約100人乗車。

2. NPO法人格認証への指導助言

2005年12月22日NPO法人熊本ホスピタリティネットワークの設立総会開催

2005年12月27日NPO法人格の認証申請手続き

2006年3月27日熊本県知事による認証

3. 助成年度の活動内容

1) 具体的な活動の紹介

(1) NPO法人登記と拠点の確保

2006年4月11日NPO法人熊本ホスピタリティネットワーク法人登記

2006年4月～新町・古町地区内「泰泰」での常駐スタート(熊本まちなみトラストとのスペースシェアリング)

(2) ペロタクシー購入と今後の予定

2006年4月15日NPO法人環境共生都市推進協会(ペロタクシーの日本代理店)代表理事森田記行との業務提携

同日、ペロタクシー(中古)1台の売買契約

2006年5月2日東京よりペロタクシー車輜到着
2006年9月5日ペロタクシー2台目車輜の売買契約、ペロタクシーを運ぶためのトラックで熊本を出発、9月6日に東京から無事帰熊

2006年9月7日2台目のペロタクシー出発式開催

2006年10月 ペロタクシーの従来の走行エリアに加え、中心商店街での走行を商店街関係者(新市街・下通り)に協力要請



2台目のペロタクシー試乗

アーケード下を走行できるよう検討中

(3)ペロタクシー研修

ドライバー研修:東京でドライバー研修を受けた草野さん、東さんが熊本でドライバー希望者の研修を実施した。これまで研修したドライバーは12名

新町・古町地区研修:2006年8月21日午前9時から地区内の公民館館長、同日夕方5時から観光ボランティアを講師に招き、ペロタクシー上(乗車)でのコース選定のポイント、及び地図をかこんでの歴史の勉強会を開催

ペロタクシー企画部会の開催

毎月1回程度、地域住民の方と現状報告および問題点、観光ルートについて、また今後のあり方等の話し合いを行った



地域の方とペロタクシーのルートを検討

(4)地区内へのNPOの広報活動支援

法人立上げ協力まちづくり団体「五福ふれあいまちづくりの会」「一新まちづくりの会」へペロタクシー運行報告及びNPO法人会員募集のハガキ発送

地区内の病院・医院への協力依頼。地域の内科・小児科病院の病院長から紹介文をいただき、4月18日、地区内病院・医院・歯科医院へ法人会員等の依頼文送付



ドライバーが地域の歴史を勉強している様子

(5)警察協議へのアドバイス

2006年5月1日県警へペロタクシーの走行エリア報告及び協議用資料作成支援

一般車輜と同じ道路交通法の規制を受ける旨、及びタクシー等の営業との調整を図ること、タクシー待ちスペースなどでのトラブルが起きないように指導あり

その後、ペロタクシー走行エリアを拡大する際にはその都度報告

(6)新町・古町地区での活動支援

2006年5月15日 地域住民への参加を呼びかけ、新町・古町地区内における本格運行開始の出発式を行った

ペロタクシーのチラシを作成・配布

(7)イベントへの参加による情報発信

2006年5月12日 世界女性スポーツ会議協賛「城見町通り welcome street」に参加

城見町から市役所駐車場まわり運行

5月19日 インフォネットフェスティバル2006 inグランメッセ参加

目的は、広告企業、法人会員の募集

ペロタクシーを展示して多数の企業人に紹介

7月22日 唐人町まつり参加(地区内イベント)

7月24日 新町地蔵まつり参加(地区内イベント)

8月26日 サマーナイトピア in堀端(地区内イベント)

10月7日 お月見会(地区内イベント)

10月22日 くまもと環境フェア2006熊本動物園運行

11月19日 風流街浪漫フェスタ(地区内イベント)

12月9・10日 玉名市イベント参加

12月23日 おても祭り(地区内イベント)

12月 イルミネーションツアー(クリスマスオーナメントを巡る自主企画)



企業展示会に出展してペロタクシーをPR

2007年1月28日 熊本城下町きゃあめぐる(地区内イベント)
 など、地元新町・古町の他からの依頼も受け入れ、ペロタクシーのPR活動を積極的におこなった。
 暮らし「再生」ワークショップin河原町(地区内イベント)
 桜祭り(地区内イベント)

(8)乗客レポートとそのまとめ

乗車実態を集計できるように、ドライバーは運行後、乗車回数分の調査票を記録するようにしている。運行ルートや乗客の状況や会話などを書き込むことで、乗客数だけではなく、実態をきめ細かに知ることができる。

特に、「短距離でも利用できるのありがたい」地元でも、知らなかったところを知ることができてよかった」などの生の声をドライバーが共有できる。

2)活動の特徴、工夫した点、苦労した点

熊本まちなみトラストは記憶の継承をキーワードに歴史的建造物の保存と活用をテーマとした活動を行っている。昨年度から取り組んでいる上熊本駅舎の活用保存研究では地域の活動者を支援し連携するという活動をスタートさせた。当事業もペロタクシーを運行するNPO法人を支援し、連携するという活動であり、歴史的建造物の保存とは直接結びつかないために、会の内部でも取り組みに対して賛否両論があった。しかし、対象としている建造物が点在していて街なみとして形成されていないために、それらをつなぐ手段が必要であり、歴史的建造物を巡る手段としてペロタクシーが有効であることが確認され、熊本まちなみトラストの支援事業として承認を得た。

3)協力者・協力団体との連携内容

新町・古町のまちづくり団体(一新まちづくりの会、五福ふれあいまちづくりの会)



テレビ取材を受けている様子

連携内容:各組織で行うお祭りにペロタクシーPRコーナーを設置してもらい、そのお祭りでペロタクシーを低料金で運行。ペロタクシーにとっては地元の顧客開拓の場となっている。

熊本城下町きゃあめぐる「立寄りどころ」24店舗
 2006年度に組織された立寄りどころは、新町古町を散策していただくために買物しなくても立寄っていただける案内スポット(店)で、この24の店舗からペロタクシーの紹介や連絡をしていただくことになっている。

城華(しろはな)・肥後力俵

2007年1月に設立した城華は城下町を粋に華やかにし、着物(和物)で地域を楽しむことを目的としている。肥後力俵は人力車を予約で走らせる会で城華の組織の一翼をになっている。ペロタクシーと人力車と一緒にイベント参加することも増えてきている。



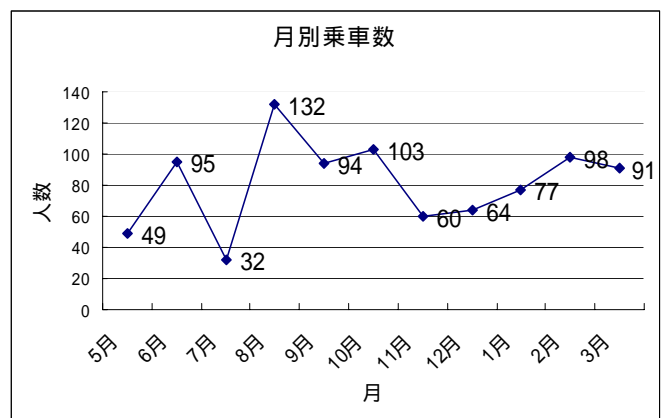
人力車と城下町観光をPR

4. 活動の成果と課題

1)目的・目標の達成度

(1)熊本城下町の顕彰活動

熊本まちなみトラストでは城下町の歴史的建造物の見学会及び交流会、調査研究発表などを年間を通して行い、地域の方々及び建造物所有者の方々との交流をはじめ、ペロタクシーに乗車いただいた方や



観光客の方々へ城下町の風情や独自の商品を知っていただく機会を提供できた。

(2)暮らしの交通手段・交流の道具

ペロタクシーは運行開始した5月から2月末までに1,637名の乗客数。うち日常乗客895人及びイベント乗客742人。1日平均約5人乗車。乗車実態調査による乗車場所・降車場所及び乗車目的をみると、交通センター(中心市街地の総合バスターミナル)が共にトップであり、買物の行き帰りの利用や帰宅などの移動手段として利用されている状況がわかった。また、病院、習い事、買物などの行き帰りに利用される方がリピーターであられ、暮らしの交通手段として利用いただいている。

また、今年度は14の主催及び参加のイベントがあった。子どもからお年寄りまでの楽しみの道具としても活用されている。

ペロタクシーの主な乗車場所

	乗車場所	人数(人)
1	センターコート	204
2	事務所	116
3	唐人町西	83
4	万町	43
5	明八橋	30
6	唐人町東	29
7	交通センター駐車場	26
8	段山	26
9	YMCA	25
10	鶴屋	23

2)地域内外への波及効果

今年度13のイベントから参加の呼びかけがあった。熊本市内に限らず玉名市からの依頼もあり、地域のイベントや子ども向けのイベント、移動手段としての試行実験的なイベントまで様々なイベントに参加できた。

また、これらのイベント参加によって、新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディアに取り上げられた。自主企画で行った12月のイルミネーションツアーでは報道各社にファックスリリースを行い、PR効果を高めた。

ペロタクシーの主な降車場所

	乗車場所	人数(人)
1	センターコート	131
2	事務所	58
3	鶴屋	53
4	唐人町西	38
5	熊本城	38
6	シャワー通り	37
7	段山	34
8	YMCA	33
9	市役所	32
10	明八橋	26

3)活動の継続性

組織体の主要なメンバーが学生であり学業の傍らでの活動ではあったが、1年間の乗車実績が彼らの自信となっている。しかしながら、会費と広告料という収入の2つの柱が未だ確立されておらず、活動を支える経済的基盤は弱い。現在の状況では事務局運営費を捻出することが難しい。活動に見合う事務局運営費用を生み出すことが活動継続の鍵となる。

4)活動推進に必要とした資源(人材・情報・資金・ネットワーク等)の活用方法

今年度、新町・古町地区の多くのお祭りやイベントに参加できたのは、地域組織とのネットワークのおかげである。人のつながりが、乗車へ繋がる情報収集や、観光ルートで活用する観光情報・歴史情報のストックとなっている。

今後、観光に関しては、立寄りどころとのネットワーク強化によって相互の活動推進に役立てていきたい。

5)団体が抱える課題と解決策

課題は経営基盤の確立とドライバーの確保の2つである。

まず1つめの経営基盤の確立には、収入の2つの柱の強化が挙げられる。具体的には会費収入の中でも法人会員の拡大と広告収入の安定化である。

これまでの運行状況からみて、リピーターの利用目的である通院や買物の対象となっている法人への会員加盟の促進は重要である。したがって、地域内の病院・医院との連携をより深めるため、今後、各病院の先生と直接お会いし、活動主旨を十分に理解していただき、会員拡大を図る。

広告料として1台1ヶ月フルラッピングで25万円の契約を基本としているが、フルラッピングのニーズは少ない。そこで、熊本城築城400年祭応援車体として、1ヶ月5万円の広告枠を設けて走らせている。広告収入を安定化させるためには、ペロタクシー車体をより多くの人の目に触れる走行を実践すること



お客様を乗せて町を走行中

と、理事長や事務局長が営業活動を行う時間を捻出するためのドライバー人材の確保である。

ドライバーの確保では、4月に入って入学式などで学生がベロタクシーに触れる機会をつくり、新生などに向けて積極的なドライバー募集を行うこととする。

5. 今後の展開

1) 団体や活動の方向性・将来像

熊本まちなみトラストは、2007年春、発会から10年を迎える。これまでに築いたネットワークと培ったスキルを活かし社会貢献を行う段階にきている。まず、第一弾としてこの助成を活用し、城下町において大学生をはじめとする若者が賑わいの担い手として活躍する場を提供し、ベロタクシー活動に関わる多くの若者たち(NPO法人理事とドライバー)にコミュニティビジネスの実践の場を提供することができた。今後も、このような場を積極的に提供し、独立・未来志向型の企業家精神を育てていきたい。

2) 目標とする組織体制・資金計画

(1) 資金計画

基本財源は会費収入であり、年間30万円ほどである。近年は毎年助成を得ているので特別財源があり、数十万円から数百万円までの幅で年間の収支が動く。が、このことが大きな問題ではない。問題があるとすれば、助成金に振り回されて本来の会の目的や人的結合がくずれることであるが、今のところそれはない。しかし、社会貢献度が増してくると、ここぞという時に投入できる準備金を設けておくべきである。ここ数年剰余金は100万円程度で推移しているが、300万円程度の準備金は用意しておきたい。とりあえずの建物補修等にボランティアを投入したとしても500万円くらいは必要と見られるからである。

(2) 組織体制

社会貢献度が増してきたので、法人化すべきとの



古い町並みに溶け込んでいるベロタクシー

声があがっている。十分に議論を重ねる必要があるが、10年目を迎えた今年を法人設立の目標年としたい。



NPO法人熊本ホスピタリティネットワークのパンフレット